

第3学年 英語科学習指導案

日 時 平成27年10月 9日 (金) 5校時
 生徒 巻塚中学校3年A組 男15名 女10名 計25名
 指導者 本 宮 美恵子

1 単元名 PROGRAM 6 Let's Talk about Things Japanese.
 (「SUNSHINE ENGLISH COURSE 3」開隆堂P60～65)

2 単元の目標

現在分詞や過去分詞を用いた後置修飾（形容詞的用法）の構造を理解し、その表現を用いて日本的なものについて英語で紹介できるようにする。

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループ学習に積極的に取り組んでいる。 ・音読練習に意欲的に取り組み、進んで発表しようとしている。 ・日本的と思うものについて15語以上の英語を用いて紹介しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を考えながら正しい発音で音読できる。 ・英文を聞いてその内容を正しく日本語で表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分詞の後置修飾の形容詞的な用法を含む英文を聞いて理解できる。 ・本文をよんで、内容を把握できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の背景となっている日本の文化について理解できる。 ・現在分詞と動名詞の違いが理解できる。 ・現在分詞と過去分詞意味を理解し、正しく用いることができる。

4 単元の学習系統（関連と発展）

小学生	→	中学校 3年生
<ul style="list-style-type: none"> ・間違いをおそれずに英語を話そうとする態度 ・他国の文化を理解しようとする態度 		<ul style="list-style-type: none"> ・英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 ・自国・他国の文化を理解し、自国の文化を発信しようとする態度

5 単元について

(1) 生徒について

生徒たちは小学校での外国語活動を経験してきており、中学校での英語学習にも積極的に臨んでいる。小学校の時と同じALTが訪問したり、6年生の時に中学校の英語の授業を体験したりすることで外国語活動から英語学習へと、スムーズに対応できたものとする。能力的には個人差はあるものの、課題の提出やパフォーマンステストに対する態度も良好で、小・中連携での学習規律の指導の成果が感じられる。

後置修飾についてはすでに“people on the roof”のようなかたちで学習しているが、分詞による後置修飾は、現在分詞と動名詞との違いの理解等、生徒にとってつまづきやすい指導項目である。また、今後の学習で扱っていく関係代名詞を含む文の学習に生かせるよう、生徒の活動量を十分に設定しながら丁寧に指導していきたい。また、生徒たちの積極性を生かし、自分たちの文化を発信していこうとする意欲を育てながらコミュニケーション能力を高めていきたい。

(2) 教材について

本単元は学習指導要領において「内容の取扱い」の中で「外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと」と規定されている。この点を踏まえ、日本の文化を英語で紹介することを目標としており、英語文化の中にそれを表す概念がない場合にどのような説明を加えることで相手の理解を得られるかを、考えることで「自国の文化の発信」に生徒の興味や関心を向けることをねらいとしている。

(3) 指導について

ここで扱われる主な文法事項は、現在分詞あるいは過去分詞に導かれる語句が前述の名詞を修飾する「後置修飾」である。生徒たちは1年生の時から平易な後置修飾には触れてきているものの、日本語の特徴である「前置修飾」による修飾の概念から抜け出すことは困難である。しかし、これから学習することになる関係代名詞やさらに高等学校で学習する関係副詞とのつながりを考えても、3年生の英語学習の学習内容の中でも非常に大切な項目であり、生徒の理解を深めつつ定着を図る必要がある。教師の一方的な説明ではなく、小学校の英語活動で養ってきた「話すこと」に対する積極性を生かし、生徒の活動を通して、より確実な定着をねらっていきたい。

6 単元の指導計画（全7時間）

小単元（時数）	学 習 内 容
第1時 セクション1	・現在分詞の後置修飾（形容詞的用法）の導入 ・本文の概要把握
第2時 セクション1	・現在分詞の後置修飾（形容詞的用法）の練習 ・本文の理解
第3時 セクション2	・過去分詞の後置修飾（形容詞的用法）の導入 ・本文の概要把握
第4時 セクション2	・過去分詞の後置修飾（形容詞的用法）の練習 ・本文の理解
第5時 セクション3	・分詞の後置修飾（形容詞的用法）を使った文を理解する。〔本時〕
第6時 セクション3	・日本文化に関するものを説明する文を作る。
第7時 パフォーマンステスト	・個人が作った英文をALTの前で読み、評価をうける。

7 本時の指導

(1) 目標

日本的な建造物や物語などを、後置修飾を用いた英文で書き表すことができる。

(2) 研究との関わり

- ① 本時の目標につながるような導入や振り返る場を設定する。
- ② 個人の考えを基にグループで意見交換する場を設定することで互いに学び合わせる。

(3) 展開

段階 時間	学 習 活 動 ○：予想される反応	指導上の留意点 ◎：研究との関わり 評：評価
導 入 10	1 前時の復習としてリスニングクイズを行う。 ○説明される現在分詞の後置修飾を含む英文を聞き、テレビアニメの主人公を選ぶ。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 後置修飾を用いて、英文で日本的なものを紹介できるようになろう。 </div>	◎ 既習事項を振り返り、本時の学習に生かす ○ 理解の程度に応じて質問する回数を増減する。
展 開 30	3 新出語句の確認をする。(一斉) 4 教科書のタスク1に取り組む。 5 教科書のタスク2に取り組む。 ○個人で取り組み、全体で解答する。 6 教科書のタスク3に取り組む。 7 グループでタスクの解答を比べ合い、修正を加える。 8 全体での確かめをする。 ○個人指名で英文を確認する。 ○後置修飾の部分に下線を引く。	○ 教科書巻末資料⑦を使って動詞の活用を確認する。 評 グループでの話し合いに積極的に参加しているか。[関心・意欲：観察] ◎ 英語の苦手な生徒がグループ内の話し合いを通して考えを深め、正しい英文の構造を再確認していけるように配慮する。
終 末 10	9 学習を振り返り、まとめをする。 英文づくりの問題に取り組み、ノートに書く。 10 次時の予告	評 日本的なものを紹介する英文を組み立てることができたか。[言語・文化：ノートチェック]